

飯塚市立病院だより

令和8年
夏号

病院理念

“優しい心、深い知識、確かな技術”をもって、
患者様本位のあたたかい医療を提供し、
市民の皆様に愛され、親しまれ、
信頼される病院を目指します。

vol.64

ご自由にお持ち帰りください。
TAKE FREE

CONTENTS

- | | |
|-------------------------------|----|
| 1. 管理者のご挨拶 | P1 |
| 2. 熱中症の注意喚起(外来看護部) | P1 |
| 3. 病棟レクレーション(5階病棟) | P2 |
| 4. 栄養管理室コラム(栄養管理室) | P2 |
| 5. 一週間ホルター心電図の導入(臨床検査室) | P3 |
| 6. 患者さまに寄り添うチーム医療(4階病棟) | P3 |
| 7. 当院には救急救命士が在籍しています(救急業務室) | P4 |
| 8. 「診療情報管理室」とは？(診療情報管理室) | P4 |
| 9. 健康支援プロジェクト(リハビリテーション室) | P5 |
| 10. 特別養護老人ホームへの出前講座(総合支援センター) | P5 |
| 11. 泌尿器科診療体制(会計課) | P6 |
| 12. 福岡県診療放射線技師会学術大会(放射線室) | P7 |

当院(撮影日: R8.7.31 森・宇佐波)

地域医療支援病院・へき地医療拠点病院

飯塚市立病院 広報誌

Iizuka City Hospital



ホームページ



食物アレルギー

先日、妻と2人で直方市まで蕎麦を食べに行きました。猛暑の中、冷えた蕎麦が格別美味しく感じられました。蕎麦をすすりながら、ふと、蕎麦アレルギーの友人がいることを思い出しました。

蕎麦アレルギーは、ごく微量でも、血圧低下、めまい、意識障害など、命に関わる全身性の重篤な反応（これをアナフィラキシーショックといいます）をひき起こしやすく、一度発症すると治りにくい傾向がある危険な食物アレルギーです。そばに含まれるタンパク質が原因です。そのタンパク質は熱に強く水に溶けやすい性質を持っているため、直接そばを食べなくても症状が出ることもあるのが大きな特徴です。蕎麦と同じ釜や鍋で茹でたうどんやラーメンを食べたり、店内で舞っている蕎麦粉や蕎麦を茹でる際の湯気を吸い込んだり、旅館で蕎麦殻の枕を使ったりしただけでも発症するケースがあります。

そばに限らず、食物アレルギーと診断されている方は、誤食による万が一の事態に備え、医師から処方されたアドレナリン自己注射薬（エピペン）や常備薬を必ず携帯し、家族や周囲にも使い方や緊急連絡先を共有しておきましょう。周囲の理解が大切です。

外来看護部

外来患者さまへ 熱中症の注意喚起についてのお知らせ

毎日気温や湿度が高くなってきました。屋内外を問わず熱中症のリスクが高まります。



熱中症での当院への救急搬送件数は6月で2件、7月で29件となり一気に増加傾向にあります。特にご高齢の方や持病をお持ちの方、小さなお子さまは体温調節が難しく、重症化しやすいため注意が必要です。

外来受診の際は、来院前からこまめな水分補給を心がけ、のどの渇きを感じる前に水やお茶、経口補水液などを摂取してください。アルコールやカフェインを多く含む飲料は利尿作用があり、かえって脱水を招くことがありますので控えめにしましょう。

また、通気性の良い衣服を選び、帽子や日傘を活用して直射日光を避けることも大切です。日頃から十分な睡眠と栄養をとり、体調を整えておくことも予防に繋がります。皆さまが安心して受診いただけるよう、ご理解とご協力をお願いいたします。

院内では空調管理を行っておりますが、混雑時や移動時に体調が優れない場合は、無理をせず近くのスタッフへお声かけください。

めまい、立ちくらみ、頭痛、吐き気、異常な発汗または発汗の停止などの症状が見られる場合は熱中症の可能性があるので、速やかにお知らせください。

日頃から十分な睡眠と栄養をとり、体調を整えておくことも予防に繋がります。皆さまが安心して受診いただけるよう、ご理解とご協力をお願いいたします。



回復期リハビリテーション病棟

当病棟では、去年の夏よりレクリエーションを再開しました。

患者様が楽しく充実した入院生活を送れるよう、週一回デイルームに集まっています。季節を感じられる行事やゲーム・体操・創作活動などを取り入れ、どなたでも気軽に参加できる内容を心掛けています。レクリエーションは、楽しみながら体を動かしたり、考えたり、人と関わったりする機会となります。活動を通して身体機能や認知機能の維持に繋がるだけでなく、気分転換や意欲向上にも役立っています。

また、患者様同士で笑顔を交わしながら過ごす時間は、入院生活で感じやすい不安や寂しさを和らげ、心の元気にもつながっています。「楽しかった」「また参加したい」という声も多く聞かれ、レクリエーションをきっかけに会話が増えたり、新たな交流が生まれたりする場面も見られます。楽しい時間を共有することで自然と笑顔が増え、リハビリに前向きに取り組む力にもなっています。これからも、患者様一人ひとりの思いを大切にしながら、安心して参加できる楽しいレクリエーションを継続し、心と身体の回復を支えていきたいと考えています。



栄養管理室

栄養管理室コラム 暑い夏を元気に乗り切ろう！！

日も長く、暑い季節となりました。夏は体に受けるストレスも多く、「疲れ」が溜まりがち。

なぜなら、夏は汗と共に体の水分、ビタミン、ミネラルなどの栄養成分が失われてしまうからです。

上手に水分補給し、疲労回復効果や体の免疫力UP、紫外線予防に役立つ旬の夏野菜をたっぷり食べて夏を元気に過ごしましょう！！

● 上手に水分補給を！！

水分は一度にたくさん摂るのではなく、少量ずつこまめに補給。

1日3回の食事以外、朝目が覚めた時や食事と食事の間、入浴の前後、寝る前などこまめに補給すると良いでしょう。

● 旬の夏野菜で元気に！

強い日差しを受ける夏野菜はたっぷりのビタミン、ミネラルを含んでいます。

夏野菜を食べて、暑い夏を元気に過ごしましょう。



トマト

「トマトが赤くなる（熟す）と医者も青くなる」という、ことわざがあるほどの優れた健康食材。赤い色素成分のリコピンは抗酸化力があり、がんや動脈硬化の予防効果があるといわれている。



オクラ

切ったり刻んだ時に生じる粘りは、ペクチンやムチンの成分。それが弱った胃腸を保護する役目になる。たんぱく質分解酵素も含み、たんぱく質の消化を助ける働きも。



きゅうり

きゅうりの95%以上は水分だがカリウムやビタミンCなどの栄養素が含まれている。夏は体がむくんだり、だるさが溜りがちだが、そんな時にきゅうりが利尿・解毒剤代わりに一役かう。



なす

皮に抗酸化作用のあるナスニンが含まれており、コレステロールの酸化を防ぎ、細胞の酸化やがん化抑制作用がある。また、体の熱を冷ます作用も。

7月より一週間ホルター心電図を導入しました！

飯塚市立病院 生理検査室

◆ ホルター心電図はどんな検査？

小型の心電図記録装置を装着し、日常生活中心電図を記録し、解析する検査です。病院内で実施する心電図検査と異なり、長時間記録することができるのが特徴です。病院ではとらえきれない一過性の不整脈を検出したり、動機や胸痛などの自覚症状が出た時間の心電図を解析することで異常を見つけることができます。

当院では今まで24時間ホルター心電図、2週間ホルター心電図の2種類を運用していましたが、2026年7月より1週間ホルター心電図が導入されました！



胸痛や動機などの
症状がある方は
ご相談ください

24時間ホルターより不整脈の検出率が
大幅に上昇すると言われています！！



※ 装着中は入浴はできませんが、シャワー浴が可能です。

※ 胸にフィットしやすい形状で電極が浮かずはがれにくいので安心してご利用いただけます。

4階病棟

4階病棟～患者さまに寄り添うチーム医療～

4階病棟は、外科・内科・眼科・泌尿器科・皮膚科の急性期病棟で、HCUを併設しています。胃・大腸・胆のう・痔核・ヘルニア・乳腺・下肢静脈瘤・泌尿器疾患・白内障など、さまざまな手術を受けられる患者さまの入院・治療を行っています。手術を控えた患者さまにとって、入院生活は大きな不安を伴うものです。私たちは、一人ひとりの気持ちに寄り添い、安心して手術や治療に臨み、回復へ向かっていただけるよう支援しています。術前には、不安や疑問を丁寧に伺い、患者さまだけでなく、御家族にも安心していただけるよう、必要に応じて情報提供や相談対応を行っています。術後は、痛みの軽減に努めながら合併症予防や早期離床を進め、日常生活へのスムーズな復帰を目指した看護を提供しています。

また、当病棟では毎日、医師・看護師・薬剤師・リハビリスタッフ・管理栄養士などの多職種による術前・術後カンファレンスを実施しています。患者さまの状態や治療方針を共有し、それぞれの専門的な視点から意見を出し合うことで、安全で質の高い医療と看護の提供につなげています。さらに、患者さまの状態に応じてHCUと密接に連携し、入院から回復まで切れ目のない医療・看護を提供できる体制を整えています。

これからも、患者さまと御家族が安心して治療を受け、笑顔で退院の日を迎えられるよう、多職種が力を合わせ、思いやりのある質の高い医療・看護の提供に努めてまいります。そして、地域の皆さまから信頼され、安心して選んでいただける病棟であり続けられるよう、スタッフ一同努力を重ねてまいります。



当院には救急救命士が在籍しています

救急救命士とは、、、、？

医師の指示の元、病院救急車や救急外来で気道確保や点滴ルートの確保、薬剤投与が実施できる国家資格です。

当院に所属している救急救命士は、消防所属の救急救命士ではなく、病院に所属する病院救命士です。当院では3名の病院救命士が在籍しており日々の業務に従事しています。

教えて病院救命士Q&A

Q1 病院で救急救命士って働けるの？

A:令和3年10月に改正救急救命士法が施行され活動範囲が病院内に拡大されました。当院の他にも近隣の3次医療機関や2次医療機関で多くの病院救命士が活躍しています。

Q2 どんな事をしていますか？

A:主に救急車で来院された患者さんの対応や病院の救急車を活用し施設、医療機関等へお迎え搬送を行っています。また院内活動としてBLS普及活動を行っています。

Q3 病院救急車って何ですか？

A:消防署の救急車ではなく、病院が管理をしている救急車です。消防機関の救急車と同程度の設備を備えております。



診療情報管理室

「診療情報管理室」とは？

カルテなどの診療記録は、患者さんの診療内容を記録するだけではなく、医療スタッフ同士が情報を共有し、安全で適切なチーム医療を行うために欠かせないものです。

診療情報管理室では、診療情報管理士を中心に、診療記録が適切に作成されているかを確認したうえで、安全に管理しています。

また医師が付与したICD-10（国際疾病分類）のコードが適切であるかを確認しています。

ICD-10は傷病名ごとに世界保健機関（WHO）が定めた国際的な基準で分類するために活用されています。

さらに、がん登録やDPC関連データなどの各種診療データについて、診療記録との整合性を確認後収集・分析を行い、医療の質向上や業務改善につなげています。

私たちは、正確な診療情報の管理と活用を通じて、患者さんが安心して医療を受けられる環境づくりを支える専門部門です。



【当院リハビリテーション室のスタッフ、小宮が教えます！】

リハビリテーション室スタッフが「地域の人々の声を聞き、求めていることを考え、共に健康を目指す」ために実施している健康支援プロジェクト。次回開催概要が決定いたしました。

日時：2026年9月12日（土） 12：30～受付 13：00開始～14：00終了予定

開催場所：飯塚市立病院 1階内科外来 ※正面玄関から入って腰掛けソファのところを左に曲がると正面になります。

今回は当院理学療法士の小宮 優氏の講演となります。

講義テーマ：「**フレイルを知って予防しよう～健康で元気に暮らすためのコツ～**」

参加費：無料 参加申し込み：不要

～講師からのコメント：フレイルとは、健康と要介護のあいだにある「元気がちょっと減ってきた状態」のことです。最大のポイントは「元の健康な状態へ引き返せる」ということです。フレイルについて知りたい方、フレイル予防に興味がある方、ご家族・ご友人がフレイルないか心配な方などは是非聞きに来てください。皆様と会場でお会いできることを楽しみにお待ちしております。～

講演内容

- フレイルって何？
- フレイルのチェック方法
- フレイル予防（運動、栄養、社会参加）の3要素
- 自宅で出来る運動の実践

健康支援プロジェクト 次回案内

講義テーマ：「～腕からくる肩こりについて学びましょう～」

講師：当院作業療法士の安藤 佑輔氏

日時：2027年1月開催予定 詳細は次号に記載



総合支援センター

特別養護老人ホームへの出前講座を開催しました

総合支援センター（入退院支援室）中野 直人

当院は飯塚医療圏における5ブロック地域包括ケアシステム推進協議会の連携拠点病院となっており、地域包括ケアシステムの推進のため、顔の見える連携体制の構築を目的に飯塚医療圏内の介護施設を訪問し、出前講座を開催しています。

今回は当院の感染管理認定看護師とともに「標準予防策と手指衛生」をテーマに、飯塚市内の特別養護老人ホームを訪問し、施設の職員さんへ手指衛生のタイミングや手指の洗い残しの多い危険地帯などについてミニレクチャーを行いました。レクチャー後には参加された職員のみなさまに手洗いを実践していただき、普段の手洗いがきちんとできているか、どの部分に洗い残しが多いかを専用の機器で確認する体験を通じて、手指衛生への意識を高めました。参加された職員のみなさまからは「手指の菌を目で見ることで日頃どれだけ洗えていないのか知ることができた」、「自分の手がしっかり洗えていないことが目に見えて分かったので、今後入念に洗おうと思います」といったご意見もいただきました。今回の出前講座がこれからの施設での感染予防の一助となれば幸いです。

今後も出前講座の活動を通して、飯塚医療圏の介護施設と顔の見える連携体制の構築に尽力していきます。



泌尿器科診療体制が新しくなりました

常勤医師着任・医療機器充実

2026年4月より泌尿器科が常勤体制となりました。
継続的で専門性の高い診療体制を整え、地域の皆さまに安心して
受診いただける環境づくりを進めています。

対象の患者様

- * 排尿障害・頻尿・尿失禁・残尿感などの症状がある方
- * 健診や血液検査でPSA高値（前立腺がんの疑い）を指摘された方
- * 尿潜血・血尿を認める方
- * 尿道カテーテルの管理や自己導尿の指導が必要な方
- * 専門的な検査（膀胱鏡や尿流測定）での精査を希望される方
- * 術後CTフォロー等の経過観察が必要な方



永富 裕子医師
泌尿器科専門医・指導医

当院で実施可能な検査・治療・手術

【検査】 腹部エコー、残尿エコー、膀胱鏡検査、尿流量測定（ウロフロメトリー）

【薬物治療】 前立腺肥大症、過活動膀胱、神経因性膀胱、前立腺癌ホルモン療法、
胃癌・尿路上皮癌化学療法、膀胱内注入療法など

【主な手術・検査】 膀胱がん：経尿道的膀胱腫瘍切除術（TURBT）
前立腺肥大症：経尿道的前立腺レーザー蒸散術（CVP）
前立腺がんの疑い・血清PSA高値：前立腺生検
水腎症・腎盂腎炎・尿路閉塞：経尿道的ステント留置術
陰嚢水腫：陰嚢水腫穿刺 など

【患者指導・管理】 自己導尿指導、尿道留置カテーテル等の排尿管理

新しい診療機器を導入しました

軟性膀胱鏡

やわらかく細い
内視鏡を用いて
膀胱や尿道を観
察する検査で、
痛みを最小限に
抑えつつ病変の
確認が可能です。



尿流量測定装置

前立腺肥大症や尿道狭窄症などによる排尿障
害の程度を調べる検査装置です。排尿の勢い、
排尿量、排尿時間などの測定を行い、さらに
排尿後の残尿量を超音波検査で測定します。

超音波診断装置

腎臓や膀胱、前立腺の状態を
画像で確認する検査機器です。
痛みや放射線被ばくの心配が
なく、身体への負担が少ない
ため、安心して検査を受けて
いただけます。



第12回福岡県診療放射線技師会学術大会 で研究発表を行いました

当院の医療技術部放射線室、診療放射線技師の

小谷博文が、「第12回福岡県診療放射線技師会学術大会」

において研究発表を行いました。

今回の発表では、STAT画像報告の現状と課題について
整理し、今後の改善策を発表しました。

STAT報告は診断ではなく所見の報告ですが、

その役割の重要性を再認識し、

継続的な体制整備と意識向上が必要であると考えます。

また、STAT報告によって若手技師の育成やチーム医療の強化にも役立ちます。

学術大会では多くの医療従事者との意見交換を行い、

新たな知見を得る貴重な機会となりました。

当院では今後も、学術活動を通じて知識と技術の向上に努め、

より安全で質の高い医療の提供に貢献してまいります。



STAT報告とは

CTやMRI、レントゲンなどの画像検査において、

緊急の対応が必要と考えられる異常所見が見つかった場合に、

その情報を速やかに放射線科医へ、

放射線科医不在時では診療放射線技師が担当医へ伝える仕組みです。

この「STAT報告」により、患者さんが必要な治療をできるだけ早く受けられるようになり、
患者の安全と医療の質の向上にもつながっています。

